

2006 年度（平成 18 年度）

事業報告書

自 2006 年 4 月 1 日

至 2007 年 3 月 31 日

社団法人企業メセナ協議会

I 法人の概況

1. 法人設立年月日

1990年4月20日

2. 定款に定める目的

この法人は、芸術文化活動に対する支援を行う企業相互の連絡協議を図り、芸術文化支援に係わる啓発、情報提供、顕彰等を行うとともに、企業と協力して芸術文化活動への助成を行い、もってわが国の芸術文化の向上、発展に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 芸術文化に関する啓発・普及
- (2) 芸術文化支援に係わる情報の収集と配布、並びに仲介
- (3) 芸術文化支援活動の調査・研究
- (4) 芸術文化支援活動の顕彰
- (5) 海外の同種の機関との交流
- (6) 企業との協力による芸術文化活動への助成
- (7) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

4. 所管官庁に関する事項

文化庁 文化部 芸術文化課

5. 会員の状況

種 類	当期末	前期末比増減
正 会 員	149社	+3
準 会 員	40社・団体	+1
合 計	189社・団体	+4

6. 会議等の開催状況

会議名	回数	会議名	回数
理事会	3回	大賞部会	4回
評議員会	1回	研究部会	6回
通常総会	2回	助成選考委員会	6回
幹事会	8回	大賞審査会	2回
調査部会	4回		

7. 部会メンバー

2006年度の部会メンバーは以下の方です。

(敬称略、所属は当時、氏名 50音順、◎印：部会長)

<調査部会>

- ◎ 関正雄 (損害保険ジャパン)、清島講紀 (メルシャン)、齊藤公治 (NEC)、
柴崎敏男 (三井物産)、嶋田実名子 (花王)、松代隆子 (電通)

<大賞部会>

- ◎ 若林覚 (サントリー)、朝子正三 (ワコール)、市川哲夫 (第一生命保険)、
菅沼比呂志 (リクルート)、勝呂栄 (トヨタ自動車)、富田秀実 (ソニー)、
久野敦子 (セゾン文化財団)

<研究部会>

- ◎ 加藤種男 (アサヒビール芸術文化財団)、相沢俊行 (松下電器)、
市村作知雄 (アートネットワーク・ジャパン)、大久保典香 (AIG)、
太田守宏 (キヤノン)、片山正夫 (セゾン文化財団)、
斉藤全彦 (セガサミーホールディングス)、佐藤文昭 (松下電器)、
佐藤正明 (ソニー音楽振興会)、高萩宏 (せたがや文化財団)、
樋口昌樹 (資生堂)、吉本光宏 (ニッセイ基礎研究所)

研究アソシエイト：宮崎刀史紀 (早稲田大学演劇博物館)

II 事業の状況

1. 啓発・普及事業 (5,873 千円)

1.1 セミナー、シンポジウム (1,392 千円)

※出演者氏名 50 音順

開催日	会場	テーマ・内容	参加者
5月10日 (水)	鉄鋼ビル地 下会議室 (東京)	“まるごと2時間”メセナマネジメント塾—① 「速習・まるごと企業メセナ」 企業メセナの現状などについて 講師：協議会事務局の各事業担当者 	23名
5月17日 (水)	”	“まるごと2時間”メセナマネジメント塾—② 「メセナとお金の話～税制・寄付・協賛の“なぜ”を解決～」 日本の寄付税制や協議会助成認定制度について 講師：事務局担当者	14名
5月24日 (水)	”	“まるごと2時間”メセナマネジメント塾—③ 「旬のプログラムを創り出す～アイデア・課題を旬のメセナ企画に結びつける～」 講師：徳永恵美子氏 (コスモ石油) 	12名
5月31日 (水)	”	“まるごと2時間”メセナマネジメント塾—④ 「メセナと法律の基礎知識」 講師：作田知樹氏 (Arts and Law)	16名

開催日	会場	テーマ・内容	参加者
7月1日 (土)～2 日(日) (共催事 業)	生活支援型 文化施設「コ ンカリーニョ」 (札幌)	NPO 法人コンカリーニョ主催 「コンカリー・アート・フォーラム No.1」 「まちに息づく文化の駅(プラットフォーム)を考える」 ■「文化芸術の社会的な意義と可能性」 講師：磯田憲一氏(太陽北海道地域づくり財団)、 加藤種男氏(アサヒビール) 司会：中津邦仁氏(札幌室内歌劇場) ■「企業との幸福な関係—民(ビジネス)・民(NPO)の 連携で新スタイルの文化拠点をつくろう!～地域に必 要なく生活支援型文化施設>って?～」 講師：加藤種男氏(アサヒビール)、齋藤ちず氏(コン カリーニョ)、臼井幸彦氏(JR北海道)、 三浦重道氏(元リクルート北海道じゃらん) モデレーター：若林朋子(企業メセナ協議会) ※ 以下のプログラム略	120名
7月29日 (土)	ツイン 21 MID タワー (大阪)	大阪 21 世紀協会主催「舞台芸術・芸能見本市 2006 大阪」 企業メセナ協議会主催セミナー 「お答えします!いまさら聞けない企業への疑問 ～アートと企業のパートナーシップのために～」 講師：甲斐賢治氏(remo)、嶋田実名子氏(花王)、 吉村真也氏(TOA) モデレーター：若林朋子(企業メセナ協議会)	67名
9月1日 (金)～2 日(土)	十日町市・ 津南町地域 (新潟)	フィールド視察「メセナ的に巡る!大地の芸術祭越後 妻有アートトリエンナーレ 2006」 講師：北川フラム氏(アートフロントギャラリー)	23名



開催日	会場	テーマ・内容	参加者
12月19日 (火)	三菱地所 大手町ビル (東京)	<p>「アート」と「企業メセナ」の現場担当者による“意見交換ラウンドテーブル”「意外に知られていないメセナのDos（常識） & Dont's（非常識）」</p> <p>出演者：【モデレーター】片山正夫氏（セゾン文化財団） 【コメンテーター】小沢有子氏（アーツイニシアティブトウキョウ）、齊藤公治氏（日本電気）、佐藤文昭氏（松下電器産業）、高樹光一郎氏（ハイウッド）</p> 	65名

※所属・役職は出演当時

1.2 全国メセナ組織との交流（205千円）

全国メセナネットワーク(加盟17団体)の第11回全国会議が9月8日(金)・9日(土)の両日にわたって、北海道・伊達市の「だて歴史の杜カルチャーセンター」で伊達メセナ協会共催のもとに開かれました。ネットワーク加盟団体関係者、地元関係者ら約100名の参加があり、当協議会からは会員関係者、加藤専務理事など計4名が出席しました。

なお本会開催にあたり、損害保険ジャパン、トヨタ自動車、松下電器、ワコールホールディングス各社のご協賛、アサヒビールより飲料ご協力をいただきました。

開催日	テーマ・内容
9月8日(金)	<p>「アートでまちづくり—伊達市の場合」</p> <p>○特別講演「伊達市の歴史と文化」 岩本英男氏（伊達メセナ協会会長）</p> <p>○てい談「アートと企業とまちづくりを实践する」 大島直行氏（人類学者、伊達市噴火湾文化研究所長）</p> <p>影山吉則氏（劇団パラム副団長、演出家）</p> <p>野田弘志氏（画家、広島市立大学名誉教授）</p> <p>○市民ミュージカル『いつの日にかへ』鑑賞</p> <p>○情報交流会</p>
9月9日(土)	<p>○総会</p> <p>○加盟団体活動事例報告</p>

1.3 広報活動（431 千円）

(1) 「メセナアワード 2006」選考結果記者発表会

開催 2006 年 10 月 12 日（木）

会場 ワード資生堂（東京）

参加記者：34 名、掲載件数：105 紙・誌

※別に、贈呈式については 10 紙・誌が掲載。

(2) 「2006 年度メセナ活動実態調査」記者発表会

開催 2006 年 11 月 14 日（火）

会場 東京商工会議所（東京）

参加記者：19 名、掲載件数：22 紙・誌

(3) プレスリリースによる情報発信

① 「企業メセナ協議会 15 周年記念シンポジウム in 福岡」（2006 年 1 月 24 日）

② 「メセナアワード 2006」募集告知（2006 年 3 月 28 日）

③ 「メセナアワード 2006」受賞企業・活動決定（10 月 12 日）

④ 2006 年度「メセナ活動実態調査」結果（11 月 14 日）

⑤ 2006 年度版メセナ活動データベース「メセナビ」（11 月 14 日）

⑥ 2006 年度「企業財団のメセナ活動実態調査」結果（11 月 14 日）

(4) その他取材対応

テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」

特集：社員のボランティア（8 月 8 日）、

「ケンちゃんの晩めし前」（経済用語解説番組「メセナ」）

（2007 年 2 月 2 日）

J-WAVE 「GOOD MORNING TOKYO」

モーニングセッション：企業メセナについて電話インタビュー

（2006 年 5 月 9 日）

ほか 23 件

2. 情報集配・仲介事業（19,604千円）

2.1 情報誌の発行（5,353千円）

16頁・A5判の情報誌として『メセナnote』43号～48号を次の内容で発行しました。なお、本誌の発行にあたっては、次の会員企業8社に協賛いただきました。

アサヒビール、サントリー、資生堂、損害保険ジャパン、第一生命保険、大日本印刷、松下電器産業、ワコールホールディングス

（敬称略）

号	巻頭言	トップ・インタビュー・Close up	特集・寄稿	その他
43 5/15 発行	ダンスの「創造」 支援におけるジ レンマ ハイウッド・プロ デューサー 高樹光一郎	「ブランド」の厚み をつくるメセナ 三和酒類代表取締役 会長 西太一郎	特集：＜創造＞を支え るメセナ ＜寄稿＞創造に対す る支援～セゾン文化 財団の考え方 セゾン文化財団常務 理事 片山正夫 ＜事例＞ 富士ゼロックス、ホル ベイン工業、トヨタ自 動車、ザ・フェニック スホールほか	■メセナのヒント 資金提供のほかに望ま しい支援方法とは？ ■実態調査こぼれ話 (7) 経営資源で拡がる メセナ ■メセナにまつわるお 金の話 (7) 聞きたい！メセナ担当 者の本音 [A社の場合]
44 7/15 発行	人々が＜里山の祭 り＞にかかわる理 由 アートディレクター ／アートフロント ギャラリー 代表 北川フラム	創造のプロセスで 起こる＜冒険＞を 伝える カルティエ現代美 術財団ディレクタ ー兼チーフキュレ ーター エルベ・シ ャンデス	特集：地域を変える!? アートパワー ＜寄稿＞直島で芸術 と社会の接点をつく る 地中美術館館長／直島 福武美術財団 常務理 事／ベネッセアートサ イト直島 アーティス ティックディレクター 秋元雄史 水戸芸術館現代美術 センター 芸術監督 逢坂恵理子 越後妻有アートトリ エンナーレ アートライター 白坂ゆり	■メセナのヒント メセナ アワード応募活 動に見る＜地域＞志向 ■実態調査こぼれ話 (8) 企業のメセナ情 報を見てみよう ■メセナにまつわるお 金の話 (8) 聞きたい！メセナ担当 者の本音 [B社の場合]

号	巻頭言	トップ・インタビュー・Close up	特集・寄稿	その他
45 9/15 発行	未来を見据えた 音楽支援を いずみホール 音楽ディレクター ／国立音楽大学 教授 礪山 雅	「継続と蓄積」が次 世代育成につながる ソニーコーポレー ト・エグゼクティブ SVP（広報・渉外・ CSR）原 直史	特集：企業による音楽 支援 ＜寄稿＞支援する側 に求められる「創造 性」 音楽学者・評論家/明 治学院大学教授 岡部真一郎 ＜事例＞ 新日本製鐵、サントリ ー音楽財団、ローム ミュージック ファン デーション、九州電 力、日本電気、A I G、 住友生命保険、ニッセ イ同和損保、日本たば こ産業、凸版印刷、王 子製紙ほか	■メセナのヒント 企業の音楽ホール ■実態調査こぼれ話 (9) なぜ音楽へのメセ ナが多いの!? ■メセナにまつわるお 金の話 (9) 聞きたい！メセナ担当 者の本音 [C社の場合]
46 11/15 発行	メセナは企業の 生命線 林原代表取締役 社長 林原 健	現代美術で「よく生 きる」ことを考える ベネッセコーポレー ション代表取締役会 長／直島福武美術館 財団理事長 福武總一郎	特集：社員がいきるメ セナ ＜寄稿＞演劇を通じ てのコミュニケーション デザイン 劇作家・演出家／大阪 大学コミュニケーション デザイン・センター教 授 平田オリザ ＜事例＞ ユポ・コーポレーショ ン、パイオニア、フェ リシモ、コスモ石油	■メセナのヒント 社会貢献・メセナ活動に 社員が一步を踏み出す 仕組み ■実態調査こぼれ話 (10) 支援先や企画が決 まるきっかけは ■メセナにまつわるお 金の話 (10) 聞きたい！メセナ担当 者の本音 [D社の場合]

次頁に続く

号	巻頭言	トップ・インタビュー・Close up	特集・寄稿	その他
47 1/15 発行	常にオルタナティブな発想を クリエイティブ ディレクター／ 武蔵野美術大学 名誉教授／「無印 良品」アドヴァイ ザリーボード 小池一子	庭園の維持保全を 通して地域の歴史 を伝える 富士建設代表取締 役／中津万象園保 勝会理事長 真鍋雅彦	特集：アートの場合を考 える ＜寄稿＞新世界から 新世界へ DANCE BOX エグゼク ティブディレクター ／近畿大学国際人文 科学研究科講師 大谷 燠 ＜事例＞ 青森県「Yoshitomo Nara + graf A to Z」 展、アートネットワー ク・ジャパン「にしず がも創造舎」「急な坂 スタジオ」ほか	■メセナのヒント 企業が持つ施設に生ま れた＜アートの場合＞ ■実態調査こぼれ話 (11) 企業の文化施設 ■メセナにまつわるお 金の話 (11) 寄付集め、皆はどうやっ ているの？
48 3/15 発行	芸術文化の一層 の国際交流へ 企業が担う平和 への役割 企業メセナ協議 会副会長 中江利忠	できることから始 める社会貢献 岡田文化財団理事 長／イオン名誉会 長相談役 岡田卓也	特集：メセナのお仕事 ＜寄稿＞歴史の恩恵 メセナの功德 資生堂企業文化部 樋口昌樹 ＜事例＞ AIG、アーバンコミュ ニティ、アサヒビー ル、ローム、損保ジャ パン美術財団、みずほ コーポレート銀行	■メセナのヒント メセナ最前線、担当者のお 仕事拝見 キリンビ ール ■「実態調査」こぼれ話 (12) メセナ担当者のご 意見から ■メセナにまつわるお 金の話 (12) 企業協賛の基礎知識

[増刊号]あなたが選ぶメセナ賞(10/20)

「メセナアワード」メセナ大賞部門受賞活動に対する一般投票。

[特別号]メセナレポート(11/15)

「メセナ活動実態調査」の結果をグラフ等で紹介。

2.2 情報システムによる発信（3,266 千円）

- (1) ホームページによる情報発信
ホームページ (<http://www.mecenat.or.jp/>) にて、会員企業・団体のメセナ活動をはじめ、メセナ関連情報を発信しました。
- (2) データベース「メセナビ」 (<http://www.mecenavi.info/>) に、「2006 年度メセナ活動実態調査」の結果にもとづく企業のメセナ活動および財団リンクを掲載しました。

2.3 資料収集（620 千円）

企業メセナ・社会貢献、CSR 活動および文化政策、アートマネジメント等に関する情報収集活動を行いました。また、新聞・雑誌のクリッピング、ビデオを含む事務局内の情報ライブラリーを一般に公開しました。

※公開 平日（月）～（金）11：00～17：00

■利用者：53 名（会社員、NPO 職員、自治体職員、研究者、学生等）

2.4 出版（977 千円）

メセナ セミナーシリーズの第 10 号を発行しました。本号では、芸術文化団体・アーティスト向けに、傍に置いて活用できる企業メセナについてのアプローチガイドをめざしました。

冒頭の「企業メセナの基礎知識」では、メセナについてよく質問される項目を解説、続く Part1「企業アプローチの 5 段階」では、企業に対する協賛・助成申請の方法を解説しつつ、関連セミナー「お答えします！いまさら聞けない企業への疑問」（7/29）の会議録も掲載しました。

Part2 はラウンドテーブル「意外に知られていないメセナの Dos（常識）& Dont's（非常識）」（12/19）を再録。メセナ担当者による全 4 編の寄稿や、用語集・リンク集も掲載しました。

内 容	備 考
メセナセミナーシリーズNo.10 「企業メセナへのアプローチガイド」	2006 年 7 月 29 日、12 月 19 日のセミナー収録ほか

2.5 コーディネート事業（支出：3,259千円）

会員からの要請を受けて、次のコーディネート事業を実施しました。

企業・団体名	業務内容
トヨタ自動車	<p>①アートマネジメント総合情報サイト「ネットTAM」 http://www.nettam.jp/ 企画・運営、月例更新（コンテンツ制作）作業 ○月間アクセス 約10万件（ページビュー） ○累計アクセス（2004年10月～2007年3月）164万3042件</p> <p>②「トヨタ・アートマネジメントフォーラム2007」企画・運営 開催 2007年3月3日（土） 会場 トヨタ自動車（株）東京本社ビル 参加者：360名</p> <p>* オープニング（主催者挨拶＋オープニングセッション） 主催者挨拶：内川重信氏（トヨタ自動車） オープニングセッション：宮崎刀史紀氏（早稲田大学演劇博物館演劇研究センター）</p> <p>* 分科会 A NPO 法人芸術資源開発機構（ARDA） 「〈高齢化社会とアート環境〉——シルバーパワーが社会を変える」 分科会 B NPO 法人プラス・アーツ 「〈防災〉に対してアートができること」 分科会 C 子どもとアーティストの出会い 「いま、教育現場に必要なアートとは？—アーティスト・イン・スクールのこれまでとこれから」 分科会 D NPO 法人アートNPO リンク 「アートNPO的！？経営戦略——大阪・フェスティバルゲートをケーススタディに」 分科会 E NPO 法人福岡パフォーミングアーツプロジェクト（FPAP） 「リージョナルシアターが地域を超える日—演劇が身近な存在になれば、アートも近くに見える」 分科会 F 「美術館と社会」実行委員会 「美術館と社会——美術館の位置する社会を描く」</p> <p>* 総合セッション「なぜ、いまアートなの？——アートの力、アートの社会的価値を考える」 * クロージング（レビューコメント） 加藤種男氏（アサヒビール芸術文化財団）</p>
アサヒビール芸術文化財団	<p>美術展シリーズ：アサヒ・アート・コラボレーション企画・推進およびアサヒ・アート・フェスティバル実行委員会参画</p> <p>①アサヒ・アート・コラボレーション「照屋勇賢—水に浮かぶ島」展会期 2006年6月17日（土）～7月18日（火） 会場 すみだリバーサイドホール・ギャラリー（東京） 共催 墨田区、アサヒ・アート・フェスティバル実行委員会 ※ 同展の図録を2007年3月に発行しました。</p> <p>②アサヒ・アート・フェスティバル実行委員会 上記展覧会が参加している「アサヒ・アート・フェスティバル」の実行委員として、AAF全体の運営にも協力。毎月の定例会に出席するほか、記者発表会（5/12）ならびに報告会（9/30・10/1）の進行、公募案件の選考委員（12/4・5・11）、ネットワーク会議（2/11・12）への参加、「AAF学校」における講師（3/29）を務めました。</p>

3. 調査研究事業（10,981千円）

3.1 「2006年度メセナ活動実態調査」の実施（4,449千円）

企業によるメセナ活動の実態調査は、調査部会の協力のもとに4月～5月、4,283社を対象に実施し、623社から回答を得ました。

- ◆ 2005年度にメセナを実施したと回答した企業は、これまででもっとも多い443社、1社あたりの平均活動件数は6.4件でした。
- ◆ 活動費総額につき回答のあった388社についてみると、1社当たり活動費は8,542万円、経年で比較可能な7年連続回答企業（85社）の1社当たり活動費は7年前に比べて225万円増の12,525万円で、大幅な増減は見られませんでした。

本年度の調査部会は、調査結果や調査で収集した情報をより活用するべく、調査に基く考察を重点的に試みました。特に、「メセナ活動とCSRの関連」「資金支援の重要性」「メセナ活動の基本方針」について議論し、2007年3月に「2006年度メセナ活動実態調査報告書」を発行しました。

※ 本調査の結果は「メセナリポート2006」（『メセナnote』別冊）、「2006年度メセナ活動実態調査報告書」にまとめたほか、協議会ホームページに掲載しました。また、調査によせられた各社のメセナ活動情報をデータベース「メセナビ」にて提供しています。

「メセナビ」<http://www.mecenavi.info/>

※ なお、本年度の調査事業は、文化庁の「芸術団体人材育成支援事業」に採択されました。

3.2 研究活動 (284 千円)

(1) 研究部会 (179 千円)

本年度は、CSR、あるいはアカウンタビリティが重視される企業環境において、とくに重要と思われる「企業メセナの成果と課題」をテーマにとりあげて研究活動を進めました。

6 回の部会を開催し、「企業メセナがアートの基盤整備に果たしてきた役割」、「社員参加」、「文化政策となる企業メセナ」等について、アート関係者やメセナ担当者から意見を聞き、出席者の間で議論を重ねました。なお、本年度より研究アソシエイト制を設け、若手研究者（早稲田大学演劇博物館演劇研究センター客員講師・宮崎刀史紀氏）に参加いただくとともに、研究インターン（5 名）も受け入れ、研究活動を進めました。

(2) 実務担当者勉強会（メセナ若手ネットワーク）（104 千円）

会員企業・団体においてメセナ業務を担当する若手スタッフによる勉強会を次のとおり実施しました。

開催日	会場	テーマ・内容（敬称略）	参加者
7月28日（金）	鳥栖市民文化会館（佐賀）	「地域に根ざしたメセナとは？—九州電力の事例から」 地域に根ざしたメセナ活動に取り組んでいる九州電力の事例紹介・視察と意見交換	11名
2月13日（火）	アサヒビール本部ビル（東京）	「知ることからはじめよう、アート NPO との関係」 —アート NPO 関係者をお招きして— ゲスト：徳永高志氏（クオリティ アンド コミュニケーション オブ アーツ） 樋口貞幸氏（アート NPO リンク） やまぐちくにこ氏（淡路島アートセンター）	18名



4. 顕彰事業（14,611千円）

4.1 「メセナ アワード 2006」(8,568千円)

本年度も文化庁との連携により、「メセナ大賞」と「文化庁長官賞」の2部門からなる「メセナ アワード」を実施し、メセナ大賞部門には141件（114社・団体）、文化庁長官賞部門には、142件（115社・団体）、の応募がありました。

応募案件について大賞部会の協力のもとに約4ヵ月にわたる調査・取材をおこない、8月～9月に実施した2回の審査会で次の企業および団体の受賞を決定し、贈呈式を12月1日（金）東京・青山のスパイラルホールにて開催しました。



【メセナ大賞部門】

メセナ大賞 ● 株式会社ベネッセコーポレーション

財団法人直島福武美術館財団

香川県直島での継続的なアート活動

地域文化支援賞 ● 財団法人岡田文化財団

三重県内における文化・芸術活動への助成等

収蔵作品充実賞 ● 株式会社グリーンキャブ

マリー・ローランサン美術館の運営

写真文化賞 ● コニカミノルタホールディングス株式会社

51年間におよぶ写真ギャラリーの運営

音楽総合文化賞 ● 財団法人サントリー音楽財団

クラシック音楽・現代音楽の普及・振興

庭園文化賞 ● 富士建設株式会社

財団法人中津万象園保勝会

大名庭園「中津万象園」の復元と維持保全

【文化庁長官賞部門】

文化庁長官賞 ● 近畿労働金庫

「エイブル・アート近畿 ひと・アート・まち」の開催

[2006年度審査委員](50音順・敬称略、所属等は2006年12月現在)

いとうせいこう（作家、クリエイター）/大笹吉雄（演劇評論家、大阪芸術大学教授）/

岡部真一郎（音楽学者・評論家、明治学院大学教授）/樺山紘一（東京大学名誉教授、印刷博物館館長）/北川フラム（アートディレクター、アートフロントギャラリー代表）/

檜崎洋子（武蔵野音楽大学教授、音楽学）/山根基世（NHKアナウンス室長）/

福原義春（企業メセナ協議会会長・理事長）

5. 国際交流事業（176 千円）

5.1 国際ネットワーク会議参加

11 月 16 日（木）～18 日（土）オーストリア・ウィーンで開かれた国際ネットワーク会議に事務局（1 名）が参加しました。

※「国際メセナネットワーク会議」は、各国の企業メセナ協議会が年 1 回集まり、現状報告や課題の共有、企業メセナのグローバルな展開を考えるもの。ヨーロッパ諸国は、「CEREC」という「欧州メセナ協議会連絡会」を組織し頻繁に会合を持っていますが、それ以外のアジア、アメリカ、オーストラリア、南アフリカの協議会も参加する全体的なものが「国際ネットワーク会議」です。

5.2 海外への情報発信

「メセナアワード 2006」と 2006 年度「メセナ活動実態調査」について、英文プレスリリースを作成し各国のメセナ関連機関に送付、ホームページでも情報発信しました。

その他、各国のメセナ組織との相互協力をはじめ、海外の芸術文化団体や研究者、留学生などの訪問を受け入れました。

6. 助成事業（業務費 4,921 千円）

6.1 助成認定制度利用状況

2006 年度は 6 回の助成選考委員会を開催し、申請件数 213 件、認定件数 206 件で、ともに前年度実績(245 件、234 件)には及びませんでした。

寄付件数も 1,515 件と前年度 1,738 件を下回ったものの、寄付金額については、大口の寄付などがあり、12 億 382 万円と前年度を大きく上回る額になりました。

年度	1994	2001	2002	2003	2004	2005	2006
申請件数	103	151	155	246	276	245	213
認定件数	83	146	153	234	256	234	206
寄付件数	159	949	835	1,001	1,643	1,738	1,515
金額(万円)	19,705	57,361	47,679	46,113	64,932	76,581	120,382
1件当り(万円)	123	60	57	46	40	44	62

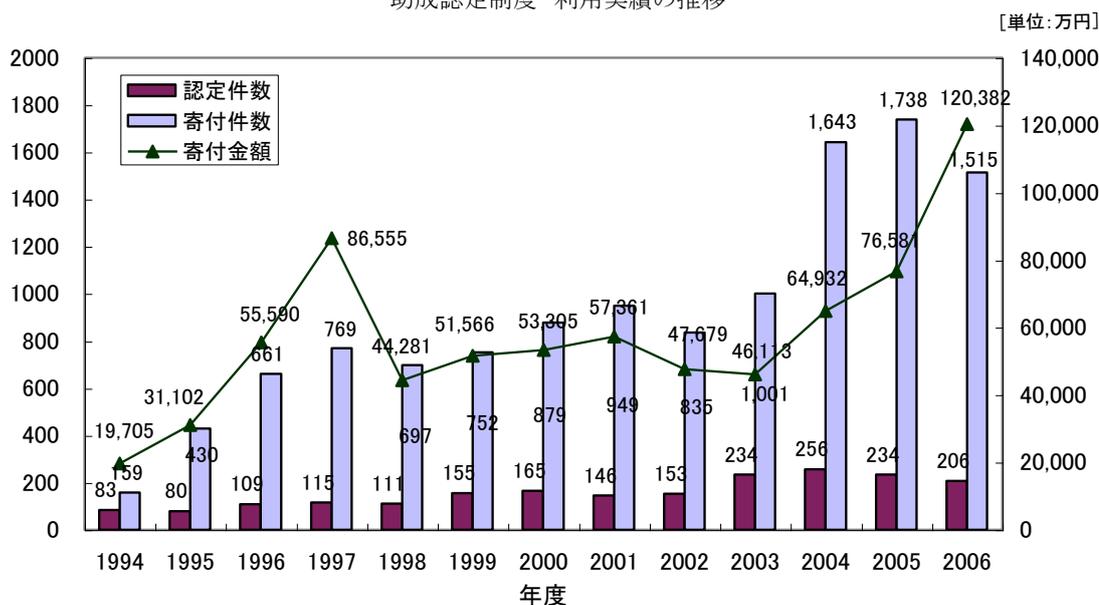
6.2 「文化芸術活動に対する民間寄付の実態調査報告書」の作成

2006 年度の助成認定制度の利用実績をもとに集計・分析したデータを「文化芸術活動に対する民間寄付の実態調査報告書」としてまとめました。

本報告書の内容は、①寄付者(民間企業及び個人)に関する分析、②認定を受けた活動に関する調査結果からなっており、とくに今後、本制度を利用したいと考える芸術文化団体関係者にとって貴重な参考資料になっています。

なお、本報告書の作成は、文化庁の芸術団体人材育成支援事業として採択されました。

助成認定制度 利用実績の推移



6.3 関西事務所活動状況

2006年度の関西事務所(大阪府中央区・大阪21世紀協会内に設置)の活動は、月2~3日程度、事務局(東京都千代田区)から職員が出張して行いました。関西エリアの会員企業との関係強化に努めたほか、相談日を設け、助成認定制度の概要説明はじめ、アートやメセナに関する幅広い質問・相談に応じました。また、3月4日(日)、大阪府立女性総合センター(ドーンセンター)にて大阪21世紀協会との共催で、セミナー「アーティストと企業のメセナ・マネジメント」を、開催しました。(参加者:会員・一般42名)

<相談対応記録>

来所人数:14名、案件:11件

質問・相談内容:助成認定制度の申請資格・方法について/企業によるメセナの状況全般について/企業への支援依頼方法について/中小企業のメセナ情報について

7. その他の活動

7.1 主な協力依頼等への対応状況

委員・講師など

依頼内容	依頼元	内容(期間・開催日)
委員	トリトン・アーツ・ネットワーク	評価委員会(4月～5月)
非常勤講師	桜美林大学総合文化学群	「社会文化・メセナ論」(4月～9月)
非常勤講師	跡見学園女子大学	「企業メセナ・フィランソロピー論」(9月～3月)
委員	横浜市開港150周年・創造都市事業本部	創造界限形成推進委員会(2006年5月～2009年3月)
講師	東京造形大学清水ゼミナール	オープンキャンパス関連シンポジウム「LINK Art to Business」(7/21)
オブザーバー	文化庁文化部芸術文化課	第19回芸術文化助成財団協議会連絡会議(7/28)
講師	愛知県県民生活部文化芸術課	平成18年度第2回市町村文化行政ネットワーク会議(8/9)
講師	日本芸能実演家団体協議会	芸団協セミナー「芸術団体のこれからを考えるために」2006夏季ゼミナール芸術団体の制作者のためのマネジメント・シリーズ(8/21)
講師	日米文化センター 学習院女子大学	学習院女子大学大学院生・国際文化交流研修(8/25)
講師	浜松市アクトシティ音楽院	主催者養成セミナー(9/23)
講師	熊本県立劇場	「舞台芸術制作セミナー～コンサート編」(10/7)
講師	松山大学総合研究所	企業メセナ活動講演会(11/13)
講師	アートNPOリンク	全国アートNPOフォーラム in 別府(11/24～11/26)
講師	ニッセイ基礎研究所	共立女子大学講義 劇・芸術特殊研究「アートと社会との関わりを考える」(12/6)
講師	慶應義塾大学文学部	DNP基金「アート・マネジメント講座」(1/12)
講師	日本クラシック音楽事業協会	人材育成事業 会員研修事業「クラ協ゼミ」(1/22)
講師	新潟県文化振興財団	研修会「アートプロデュース講座」(1/24)
講師	台東区	「台東区アートアドバイザー展」パネルディスカッション(1/26)
講師	金沢美術工芸大学	「メディアアート」(1/26-1/27)
講師	アート・イニシアティブ・シティ実行委員会	ショウケース「芸術相談クリニック」(2/2)

寄稿など

依頼内容	依頼元	内容(期間・開催日)
寄稿	韓国メセナ協議会	2006年度夏号 vol. 55 『MECENAT』誌
寄稿	日本芸能実演家団体協議会	「企業メセナ活動の10年と認定事業の推移」(『芸能活動の構造変化の把握と諸課題の研究』報告書)
寄稿	TOA	「PRPAによるメセナマネジメント革命」『Real Publicity for Art』

共催・後援・協力

依頼内容	依頼元	内容（期間・開催日）
共催	総合研究開発機構 在日フランス大使館ほか	日仏都市会議 2006「都市の文化対話」(5/8)
協力	日本経営クラブ	創立 43 周年記念事業「ミドルの日・提言&コンサート」(7/14)
共催	大阪 21 世紀協会	「舞台芸術・芸能見本市 2006 大阪」 (7/27~7/29)
後援	日本芸能実演家団体協議会	芸団協 表現教育指導者養成<2006 夏の連続講座 >「表現教育の現在と未来~実演家と教師のよりよき協働を求めて」(8/9~8/11)
後援	横浜市芸術文化振興財団	創造都市交流プロジェクト 2006—学校・地域社会 におけるアートの可能性—(2006 年 9 月~2007 年 2 月)
後援	国際文化政策研究教育学会	「文化政策研究教育セミナー」(9/10~9/11)
協力	埼玉大学後藤和子教授	オランダ・ライデン大学税制専門家 Dr. Sigrid Hemels 来訪インタビュー (10/24)
後援	日本ミュージアム・マネージ メント学会	ミュージアム・マーケティング・シンポジウム「21 世紀、ミュージアム・タウンの創造と展望」(10/26)
協力	ニッセイ基礎研究所	「芸術文化振興基金の今後の方向性と望ましい助 成制度のあり方に関する調査研究」(11/2)
協力	日本経営クラブ	創立 43 周年記念事業「JMCコンサート」(11/15)
協力	アメリカン・エクスプレス・ インターナショナル	「危機に瀕した歴史遺産」ワールド・モニュメン ト・ウォッチ写真展 (11/16~11/26)
後援	日本 NPO センター	「市民セクター全国会議 2006」(11/23~11/24)
後援	アート NPO リンク	全国アート NPO フォーラム in 青森 (10/14~ 10/15)、同 in 別府 (11/24~11/26)
後援	著作権保護期間の延長問題を 考える国民会議	「著作権保護期間の延長問題を考える国民会議シ ンポジウム」(12/11)
協力	日本経営クラブ	創立 44 周年記念事業「JMC 美の文化 講演&コンサ ート」(2/23)
協力	しずおかモデル推進学生会議	「静岡県における文化に関する中間支援組織の現 状及び課題についての調査研究」インタビュー (2/27)
協力	金沢市職員研修所	まちづくり角谷ゼミナール視察 (3/15)
協力	日本交響楽振興財団	「2007 年・学生オーケストラによるコンサート」 (3/23)

7.2 インターンシップ受け入れ

2006 年度は下記のインターンシップ研修生を受け入れ、主に事務局内のライブラリー資料整理、ホームページ更新など、事業アシスタントとして業務を担当していただきました。

派遣元・プログラム名	人数	期間
日産自動車 日産 NPO ラーニング奨学金制度	2 名	2006 年 7 月 4 日 (火) ~2007 年 2 月 28 日 (水)
東京都立芝商業高等学校 インターンシップ (就業体験)	1 名	2006 年 12 月 13 日 (水) ~12 月 15 日 (金)
自由が丘産能短期大学 ビジネス・インターンシップ	1 名	2007 年 2 月 5 日 (月) ~2 月 16 日 (金)
協議会・研究インターン	5 名	2006 年 4 月 28 日 (金) ~2007 年 3 月 30 日 (金)

上記のほか、個人から申請のあった 2 名 (京都造形芸術大学、東京芸術大学) も受け入れました。

以 上